議院議員 神奈川6区(保土ケ谷区・旭区)

2023年3月5日発行

自己肯定感について考える

皆さまお元気ですか?

今年度の通常国会が開会し、1月30日からは連 日衆議院予算委員会が開かれています。2月20日 には、私も予算委員会第四分科会(所管:文部科 学省)で「子ども・若者の自己肯定感」「多様な 人材の教育現場での活用」「学校校舎の建替え・ 活用」について、横浜市会議員の時の経験を踏ま えて、永岡文部科学大臣に質問し、前向きな答弁 をいただきました。

OECD諸国最低水準の自己肯定感

日本の子ども達は、諸外国、特にOECD諸国と 比べて自分自身を肯定的に捉えること、いわゆる 「自己肯定感」が低いと言われています。自分の 将来を明るいものだと考えられない若者が多い国 が発展していけるでしょうか。こうした状況には、 1人の政治家としても、1人の日本人としても、 非常に悔しい思いを感じています。

世界に目を向ければ、経済規模の大小にかかわ らず、人の心が豊かで、国民が幸せを感じて生き ている国々があります。私はどんな状況であれ、 自分を信じて、自己肯定感を高く持つことは、と



衆議院予算委員会第四分科会(所管:文部科学省)での質問に臨む。

ても重要なことではないかと思います。

一方、自己肯定感の経年比較を見ると、平成20 年から令和元年にかけて、自己肯定感に関する回 答の割合のうち、「高い」「やや高い」を合計し た割合は年を経るごとに大きくなっています。こ の十数年で自己肯定感が高い子どもが増えている、 という結果です。これは、大変喜ばしいことです が、まだ半数近くの子ども達の自己肯定感は高く ないままであることに私は懸念しています。



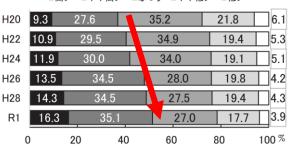
図表8 将来への希望 100 90 80 70 60 50 40 30 20 61.6

諸外国と比べて、自己を肯定的に捉えている者の割合が低い。 (図表1) 諸外国と比べて、自分の将来に明るい希望を持っていない。

> 【参照元】特集 今を生きる若者の意識~国際比較からみえてくるもの https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26gaiyou/tokushu.html

自己肯定感の経年比較

■高い ■やや高い ■ふつう □やや低い □低い



全体として自己肯定感は上昇傾向。 学年別では小学校6年から中学校2年で落ち込む傾向。 近年の文部科学省の取り組みの成果という見方もある。

青少年の体験活動等に関する意識調査(令和元年度調査) https://www.niye.go.jp/kanri/upload/editor/154/File/03-3.taiken-ishiki.pdf

どうすれば自己肯定感は高まるか

自己肯定感と子どもの体験活動や生活習慣には 密接な関係があります。「自然体験」「生活体 験|「お手伝い|を多くしているほど、自己肯定 感が高いという結果が出ています。こうしたデー タをもとに、文部科学省では今後も自然体験など の子どもの体験活動を増やしていくと、永岡文科 大臣よりご答弁をいただきました。

子どもたちの様々な体験・経験の機会を増やし、 その中で、自分で目標を設定して、「できた」と いう小さな成功体験の積み重ねが、子ども達の自 信につながり、自己肯定感の向上につながってい くのではないでしょうか。

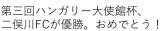
昨年、私はアイルランドに視察に行きました。 アイルランドの中学生は、中学校を修了すると、 1年間のトランジットイヤーと呼ばれる移行期間 を過ごします。この間、生徒たちは学校へは通わ ず、自由な研究やグループ学習、留学、ボラン ティア活動や職業体験など、自分で決めて自分が したいことします。自主的な行動で将来の進路を イメージしながら、自分と社会との関わりについ て考えることで、自分はできるという「自信」を つけ、人として成長していくのだと感じました。 「自信」そのものは人から与えられるものではな

く、自分で一つ一つ積み重ねなければ得られない ものですから、私たち大人は、その機会をなるべ く多く子どもたちに提供していかなければならな いのだと思います。



保土ケ谷区で第31回かるがもファミ リーマラソン5kmの部に出走。完走!







古川なおきの質問を聞く永岡文部科学大臣。

衆議院ビデオライブラリで 質疑の様子をご覧になれます!



人を前向きにする研究を進めるべき

人の心を前向きにするにはどうすればいいのか、 日本の社会はどうすれば明るくなるのか、私はい つも考えています。

逆境であっても個々人が前向きに生きる、いわ ゆる「ポジティブシンキング」というものは、決 して先天的な資質ではなく、後天的に教育や体験 によって身につくものです。

しかし、人が前向きに生きるための教育活動に はまだまだ改善の余地があるのではないかと思い ます。例えば人間の感情の研究や、実践的な心理 学やコーチングなどに力を入れるような政府の取 り組みはあまりありません。

人の心に火をつけるような教育や、人を前向き にするための教育を、文部科学省は徹底的に研究 し、それを学校教育の現場に取り入れていくこと こそ、社会の閉塞感を打ち破ることにつながるの ではないでしょうか。皆様のご意見をお待ちして います。

衆議院議員 古川なおき



国会議事堂では、本会議や各委員会が開催されています。何度 行っても建築物としての素晴らしさに感動します。「小学校以来 国会議事堂に行ったことがない」という皆さま、ぜひ国会見学に いらっしゃいませんか? 数名から数十名まで国会議場や天皇陛下 の御休所、予算委員会の委員室、国会近くの自民党本部の総裁室 まで、スタッフと一緒にしっかりとご案内させていただきます。 土日祝日も対応しておりますので、QRコードまたはお電話でぜひ お気軽にお問合わせください!

古川なおきプロフィール

1968年8月31日「野菜の日」生まれ

- 希望ケ丘高校、明治大学政治経済学部卒業、明治大学公共政策大学院修了
- ・横浜銀行、議員秘書を経て旭区より1995年横浜市会議員26歳最年少当選
- ・自民党横浜市議団団長、政務調査会長を歴任
- ・2021年10月衆議院議員総選挙神奈川6区(保土ケ谷区・旭区)にて当選
- 希望ケ丘高校同窓会「桜蔭会」理事
- ・保土ケ谷区スポーツ協会 顧問

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘199-1

TEL: 045-391-4000 FAX: 045-366-9700

E-mail: jm@furukawa2002.com











・2018年横浜マラソン完走(5時間8分) ・旭区サッカー協会 顧問